

# 神戸市立大沢小学校 学校評価報告書

学校の校目指す 標	・一人一人が輝き、笑顔あふれる学校 ・「大沢ファミリー」として、学校・家庭・地域がつながり、温かく子供を育てる学校					
心豊かで たくましい子 ～のびる つながる やりとげる～						
	内容	重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
育てたい子供の姿	よく考え自ら学ぶ子	読解力・表現力の向上	3	前向きに取り組むことはできている。さらに見通しをもつことができればさらによくなる。	落ち着いて学習に取り組んでいる。少人数だからこそできる取組をさらに進めてほしい。	少人数であることの利点を活かしながら、様々な場面で子供が前に出る機会を増やしていく。
	明るく思いやりのある子	相手意識を大切にできる心の育成	4	協力できる子供が多いが、ふとした際の言葉遣いで子供同士の問題になることがあった。	規則正しい生活が身につけている子供がいる一方、挨拶が返ってこない子供もいた。	様々な場面で子供同士が関係を作っていかなければいけない時でも、大人が手を貸してしまうことがある。待つということを大事にする。
	ねばり強く取り組みやりぬく子	与えられた仕事は、最後まで取り組む姿を育む	3	自分に与えられた事柄については、責任を持って取組める子供が多い。しかし、その状況が続くことにより、自分がしなくても誰かがしてくれるのを待つというような姿が子供達に見られないよう注意が必要である。	コロナも明け、今年度は多くの行事に参加したが、どの場面でも子供たちが一生懸命に取り組んでいる姿が見られ、とても感心した。	周囲に流されず、正しいことは自分から始めていけるような子供を増やしていく。
全市的に推進すべきこと	①いじめ防止対策に関する取組み	6年いじめ防止宣言	3	6月に6年生が「大沢小学校いじめ防止宣言」を発表し、全職員で様々な機会に情報共有を行った。	登校時や下校時に子供の様子で気になることがあれば、相談できる体制ができていた。今後も子供のことで速やかに相談できる体制を整えてほしい。	引き続き、教職員間だけでなく、保護者や地域とも情報共有をおこなえるような体制を構築していく。
	②不登校支援の取組み	関係機関との協力	3	全職員で情報を共有するだけでなくSCやSSWとも情報を共有し、課題解決に取り組んだ。	状況が分からないことが多いので、学校からの情報発信を行ってほしい。	不登校傾向のある児童だけでなく保護者の困り感にも寄り添いながら、取組を進める。情報発信も細やかに行っていく。
	③教職員の業務改善	スマイルデーの設置	2	依然として超過勤務は多いが、少しずつ業務の精選などによる成果は出てきている。	教職員の元気が子供たちの元気につながる。できる協力はしていきたい。	授業時数の適正化、行事の見つめ直しを行い、教職員が、心穏やかに業務に取り組めるようさらにとりくんでいきたい。
	④「すぐ-る」の活用、ホームページにおける情報発信	こまめな情報発信	4	ホームページを毎日更新し、児童の様子を積極的に伝えることができた。「すぐ-る」を活用し、アンケートや懇談会の希望をとった。	今後も積極的に情報を発信してほしい。一方で、地域の中で閲覧するのは紙媒体の資料もありがたい。	デジタルとアナログのバランスを取りながら、確実に情報が保護者や地域に伝わるよう取り組む。
	⑤学校生活のルールや決まり(校則など)について	教職員間の共通理解	3	変更や確認を事前に職員間で共通理解し、同じ態度で子供たちに接した。	なぜ、ルールや決まりがあるのかが分かっていないこともあるのではないかと。時代に合わせて見直しも考えてほしい。	子供達にルールや決まりの意味について丁寧に説明していく。現状に合わないルールについては、まず教職員間で見直しを考える。

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある